

2 教科領域と表現化

表現化に視点をあてた教育活動では、一つの教科を取りあげてその内容を問題にする場合は少ない。本校では教科は表現化の手段であり道具のひとつであると考えている。従って、学習指導にあたっては、各分野、各項目に示す内容のつながりを重視して、学習を通して社会的行動へと導いていくように計画しているのである。

3 指導形態と表現化

表現化に視点をあてた学習指導のために、最も効果的な指導形態はどんな形態のものが考えられるか追求する必要がある。しかし現段階では教材単元学習、生活単元学習、作業学習、日常生活指導といった従来の指導形態をとっている。そして学習指導を通してこれらの指導形態のもつそれぞれの特徴が表現化とどのような形で関連づけられ、より効果であるか検討していくことにしている。従って先に述べた条件整備とともに今後、実践を重ねる中で問題点の解決に向けて追求していかなければならない課題だと考えている。

4 教師の態度と表現化

表現化に視点をあてるという本校の立場からすると、対人関係の中で社会的行動として拡大発展されるような学習展開をする教師の態度がまず重要なポイントのひとつになることは当然である。

そこで、表現化に視点をあてた学習展開では、教師が慎重かつ周到に、「子どもが何を表現しているか。」「何を訴えようとしているか。」に、素早く気づくことが、目ざす表現化への出発点である。

即ち、学習場面、学習活動における教師の働きかけと、子どもの反応とのかかわり方が重要なポイントになるということである。

以上、表現化に視点をあてた学習展開の基本的なまえについて述べたが、本校の研究主題との取組みが、目先を変えたり、新奇を追ったりするものでないことを理解して頂きたい。従来の教育課程を表現力の育成という観点から見直し、表現化に視点をあてて再編成したに過ぎない。従って、学習指導の展開にあたっては、従来の指導とどこが違うのかという問に対しては、現段階では、はなはだ解答しにくいのである。

唯ひとつだけ言えることは、「学習が常に表現力の育成を念頭におき、目標として意識づけられた展開である。」ということである。本校の研究はやっとその緒についた段階なのである。